

サクレ・クール寺院のあるモンマルトルの南側、アベス広場前にある教会。この教会は、パリ万博のあった1900年初頭にパリ初の鉄筋コンクリートの教会でアールヌーヴォー様式を採り入れた地域の教会として造られた。設計はアナトール・ドゥ・ボド(Anatole De Baudot)。外観は、ほかの石積みの教会とは異なり重々しさはなく、ベースの煉瓦の色味とアールヌーヴォーの装飾を感じさせる落ち着いた造りで、温かみを感じさせる建物となっている。

中に入ると鉄筋コンクリートの為か柱が他の教会と比べると細く・開口部も多く全体として、軽やかにレイアウトしている。天井面は、アールヌーヴォーの曲線だけではなく1910頃に出てくる直線的なアール・デコの要素も感じられる。内部空間としての派手さは無いが祭壇上部にあるキリストのステンドグラスから通して入る光が教会としての雰囲気をかもし出していた。裏話として完成後、初の鉄筋コンクリートの教会であった為、竣工当初構造の安全性を確かめるため3年間使用されなかったとの話もある。

